

猛暑が続く松波町内で、いま最も元気のいいのがツマグロヒョウモンというオレンジ色が鮮やかなチョウで、暑さが和らいだ秋にコスモスの花を訪れる光景は、特に♀の場合格好のカメラターゲットとなるととても美しいチョウです。いずれも地色にその名前の由来となった豹柄模様が並び、写真からわかるように雌雄別種だと見間違っても不思議ではないチョウです。前翅裏面にはきれいな赤桃色がみられます。写真左は♂が私の指先にとまってくれている様子ですが通常こんなに簡単には指に止まってくれることはなく、人の気配にはきわめて敏感で飛翔スピードも速い精悍なタテハチョウです。このときはたまたま野外で自然羽化したばかりの♂に出会って指先にも止まってくれました。♀の模様は、体内に毒をもつせいで鳥などの攻撃から身をまもっている毒チョウ(例:カバマダラ;沖縄・八重山諸島に普通)の仲間とそっくりで、自然界で生き抜いてゆくために毒チョウに擬態しているという説がありますが、私は、たまたま同じ模様であるために生き延びた「自然淘汰説」がふさわしいと考えています。



80701 西畑



Oct.6,2005 松波町

幼虫がスマレ類の葉を食べて育つ種で、例えば松波町Sさん宅の前庭のスマレから毎夏きれいなチョウとなって飛び立っています。もともと南方系のチョウで、地球温暖化の影響もあって分布を北方へと広げており、多くの家庭や公共花壇に植栽されるパンジーも幼虫が好むいいエサとなるため、どんどん増えているチョウです。2006年7月、いわゆるゲリラ豪雨が西畑地区を襲ったとき、テニスコート周りに自生しているタチツボスマレを食エサとしていた本種の幼虫が、そのスマレ群がすっかり水没したせいで行き場を失ってテニスコート周辺を徘徊している状況に遭遇しました。そのときの幼虫の数は何と100頭をしのぐ大群で、私は路頭に迷うこれら幼虫の全てを家に持ち帰りました。野外のあちこちへと自転車を乗り回して野草スマレを調達し、すべてをチョウにまで育て上げて最後には一部の異常例を除いて家のベランダから次々と放して飛び立ってゆく様を楽しみました。その際、近所の子供たちが思いもかけない大量のチョウの飛翔に気づかないはずはなく、本来は魚を捕る網をもって追い回す光景も見られました。チョウにとっては迷惑な話ですが、私が助けなかったなら多くが餓死していたとも考えられ、ただ自然のなりゆきに任せました。それにしても同一种100頭ほどを飼育羽化させたことは初めてで、さすがにこれだけ



July 28, 2006 松波町飼育羽化♀

July 30, 2006 松波町飼育羽化♀

の数になると上図のような通常とは異なる黒化または白化した斑紋変異などの異常タイプ(右側のアンテナは折れたのではなく発育不全)も発生し、それらは記録標本として残しました。

なお、このチョウは食草のスマレから離れた場所でも飼育されますが、その蛹は5対の紋が**神秘的な金色**の輝きを放ちます。このような金色はルリタテハの蛹にもみられ、一体、食草のいかなる成分が金色紋に関与するのか興味があります。



Oct. 7, 2009